

令和2年第2回定例会（R02.06.09）

○6番（櫻井 茂君） 6番・櫻井 茂です。一問一答方式で質問させていただきます。よろしく願いをいたします。

最初に、市政運営に関する所信について、市長に当選されました谷島市長にお伺いしたいと思います。

市政運営に関する所信を伺いました。その中で、基本方針といたしまして7項目を挙げられておりましたが、この7項目とした理由をお尋ねしたいと思います。

○議長（池田正文君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） 石岡かがやきビジョンに基づくアクションプランとしまして、石岡みらい創造プランが平成30年から令和3年度計画として策定されておまして、この中で施策大綱として、政策目標を7点掲げております。この政策目標7項目に合わせて、所信を作成させていただきました。これまで石岡市が進めてきた基本的な方向性を受け継いだものとなっております。

○議長（池田正文君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 答弁を頂きました。歴代の市長が基本構想、そして基本計画として策定してきました石岡かがやきビジョン、そしてアクションプラン、これらの考え方の上に乗って、今回、所信を示されているものと受け止めております。このたび示されました所信の中で、谷島市長の個性、谷島カラーと言ったらいいんでしょうか、どのような形でご自身、示したというお考えをお持ちなのかをお伺いできればと思います。

○議長（池田正文君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） まちづくりの理念として私の掲げるスローガンは、「共生・共育・共働のまちづくり」です。私はこの3つをキーワードとしまして、市民一人一人の夢や希望に寄り添い、それをつないでいくことにより、夢のある石岡、子どもたちが誇りを描ける石岡づくりに向け、全力を尽くしてまいります所存です。

そして、7項目のほかにお示しをしました地域医療に関する考え、そして、所信の最後に触れました将来を見据えた持続可能なまちづくりの先頭に立つ覚悟、そして、全ての市民が幸せを感じられる社会、特に、子どもたちが石岡に誇りを持って、自らの未来に夢を描ける社会の実現に向け、不撓不屈の精神で全力を注ぐことを誓った決意にお示しをいたしました。

○議長（池田正文君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 行政課題の解決に向けましては、市長の考え方、あるいは方向性につきまして、その7項目の中で大まかに示されていらっしゃると思います。こちらにつきましては、昨日来、先輩、同僚議員多くからも細かい質問されておりましたので、お尋ねはいたしませんけれども、ただ1点。今後、個別具体的な事業化に当たりまして、市長のほうでは市民、関係団体、市議会のご理解を頂きながら、職員とともに石岡市が

今こそ1つになって、力を合わせてまちづくりに取り組みたいと考えているということで所信に触れられております。この関係者、そして議会の理解をどのように求めていくのか、こちらのお考えをお伺いしたいと思っております。

○議長（池田正文君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） どのように進めていくか。私はまずは説明をしていく、あるいは皆さんから話を聞いていく、そういった姿勢に基づいて、市政運営をしてまいりたいと思っております。そして、市議会、あるいは市民の皆さんと1つになりながら、この石岡市の課題に取り組んでまいりたいと思っております。

○議長（池田正文君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 不撓不屈の精神で全力を注ぐといった部分と、今答弁頂きました力を合わせていくといったところ、ぜひよろしくお伺いしたいと思っております。

次の質問に入ります。豚熱予防対策についてであります。

岐阜県で発生した豚コレラ、豚熱の感染拡大を受けまして取り組んでいた豚熱ワクチン接種ですが、茨城県内では367農場、31万頭余りに豚熱ワクチンの初回全頭接種を終えたことを茨城県が発表しました。石岡市の豚熱感染拡大防止に向けた取組状況等についてお伺いをしたいと思っております。

なお、質問させていただく豚熱ですが、CSFという言葉に換えて質問させていただきます。これは、アフリカ豚熱という感染力と致死力が非常に強い感染症がアジア圏に進出、拡大しておりまして、国は、このアフリカ豚熱をAFCと表記しています。一方、日本で感染拡大が広がる豚熱につきましてはCSFと表記しておりますので、質問ではCSFと、以降、発言させていただきたいと思っております。

1点目です。CSF感染拡大防止対策の現状と実績についてお伺いをしたいと思っております。

昨年の第4回定例会におきまして、当時は豚コレラ感染拡大防止対策という形でお伺いしております。CSFに感染した野生イノシシの豚舎等への接近を防止するための防護柵設置補助、あるいは野生イノシシへの経口ワクチン散布等につきまして取り組んでいる旨の答弁を執行部から頂いております。

こうした取組の成果、進捗状況をお伺いいたします。あわせまして、今年2月から取り組まれた、飼養されている豚へのCSFワクチン接種の実績についても答弁を頂ければと思っております。

○議長（池田正文君） 経済部長・額賀君。

○経済部長（額賀 均君） 初めに、防護柵設置の実績についてご答弁申し上げます。防護柵設置事業でございますが、野生イノシシの豚舎等への接近を防止するため、農場の施設、敷地を囲う柵の設置事業となっております。

市内における対象事業者が25でございまして、このうち16事業者がこの事業を要望し、設置を行っております。残り9事業者につきましては、4事業者が既に施工済みでございまして、3事業者は自主施工を予定しており、2つの事業者は廃業を予定していると伺っております。

なお、令和元年度より事業を実施しており、16事業者のうち、令和元年度中に5事業者、令和2年5月現在6事業者、計11事業者が防護柵の設置が完了しております。残り5事業者につきましては、今後、設置が完了する見込みとなっております。

次に、経口ワクチン散布ですが、CSF感染を防ぐため、野生イノシシが免疫をつけることができるよう、餌としての経口ワクチンの野外散布を茨城県や猟友会と連携して実施しております。ワクチン散布の方法として、餌づけ、散布、回収となり、令和元年度中には令和2年1月と2月の計2回実施しております。それぞれ30地点に20個を散布し、計600個を散布して、2回の合計は1,200個の散布を行い、イノシシの接触があったと思われるワクチン数が863個となっております。また、今年度においても、6月12日より経口ワクチン散布を行う予定となっております。

次に、豚熱ワクチン接種でございますが、豚コレラに関する特定家畜伝染病防疫指針に基づき、茨城県がワクチン接種推奨地区に設定されていることから、県内の全農場全頭にワクチンの接種を行っております。石岡市においては、令和2年3月12日から26日にかけて、25事業者、約2万5,000頭のうち、1万5,670頭に接種が行われております。残り約9,300頭でございますが、生後30日以内の子豚や、出荷まで20日以上の子豚でございますが、ワクチン接種の対象外となっております。全頭接種対象外となっていた子豚も含めまして、令和2年4月以降についても順次接種をしております。

以上でございます。

○議長（池田正文君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 答弁を頂きました。このCSFワクチンの接種でありますけれども、どのような体制、手法で行っているのか、そして、その経費負担、こちらについてお伺いをいたします。

○議長（池田正文君） 経済部長・額賀君。

○経済部長（額賀 均君） ワクチンの接種体制及び手法、経費、負担についてご答弁申し上げます。ワクチン接種は、家畜防疫員に任命された獣医師資格を持つ茨城県職員と民間獣医師で行っております。

経費負担でございますけれども、ワクチン接種料は茨城県の手数料徴収条例に定めており、1頭当たり340円ですが、初回全頭接種分は全額免除となっております。初回は全額免除でしたが、2回目以降については経費がかかることとなっております。

以上でございます。

○議長（池田正文君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 畜産農家のほうは、今回、最初の部分については茨城県が全額負担してくれたというようなことで、そのワクチン接種については助かっているわけがありますけれども、2回目以降は経費がかかると、農家負担という形になっていくんだろうと思います。それを受けまして、畜産農家への支援策についてお伺いしたいと思います。

石岡市のCSFワクチン接種実績が1万5,670頭という答弁を頂いておりますけ

れども、新たに出生する豚についても、ワクチン接種を行う必要が今後出てくるということだと思えます。先ほど初回全頭接種は無料だったということですが、今後進められるCSFワクチン接種はその対象外となり、有料となるわけでありませけれども、どのようなタイミングでCSFワクチン接種を行うのか、また、その経費はいかほどかかるのかについても伺いたしたいと思います。

○議長（池田正文君） 経済部長・額賀君。

○経済部長（額賀 均君） ワクチン接種のタイミングと費用についてご答弁申し上げます。肥育豚への接種については、ほかの繁殖用の豚を飼育している農場で、生後30日から60日間の間に接種することが推奨されております。茨城県手数料条例では1頭当たり340円でございますけれども、県知事の判断により減免し、320円となっております。そのため、畜産農家ではワクチン接種を行う頭数に320円を乗じた金額を市に支払い、市から県の家畜衛生保健所に支払っている状況でございます。

以上でございます。

○議長（池田正文君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 今後につきましては、20円減額の320円、1頭当たりかかりますよと。これについては市のほうに農家から払っていただくと。払ってもらったお金を県の家畜衛生保健所のほうに、市のほうで払うというような形だという答弁を頂きました。

石岡市内で毎月どのぐらいこのCSFワクチン接種を行っていくのか、頭数が分かれば伺いたしたいと思います。また、このワクチン接種がいつまで続くのか、基準や方針が国、あるいは県から示されていれば、伺いたしたいと思います。

○議長（池田正文君） 経済部長・額賀君。

○経済部長（額賀 均君） ワクチン接種の実績等についてご答弁申し上げます。畜産農家の規模や経営形態によりワクチン接種の頭数が変わるため、令和2年3月の実績から平均的な頭数を申し上げますと、1事業者、約627頭となっております。

ワクチン接種の期間については、豚熱が終息するまでとなっておりますので、長期間になることが予想されております。

以上でございます。

○議長（池田正文君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） これまで、例えば防護柵の補助、これは市のほうも出しておりますけれども、国が8分の4、半分、県が8分の2、市は8分の1ということで、8分の7の補助を防護柵の際には出しております。この場合、8分の1部分については、畜産農家自身が負担しなければならないと。金額の面では8分の1という形になりますけれども。

先ほど最初の質問でお答え頂いた際に、廃業される予定の方が2業者あるということで、経費負担が原因でやめられるのかどうか私は存じ上げませんが、経費負担なのか後継者不足なのか分かりませんが、そういった経費の部分についても、多分農家については大きな負担になっているんだろうと。

なおかつ、防護柵のほかに今後は新たに生まれてくる子ども、あるいは疾患に際してはワクチンを打っていかねばいけないということで、こちらについては1頭320円というような答弁を頂いておりました、CSF感染拡大予防対策では精神的にも肉体的にも、さらには経済的な損失も、大きな負担を畜産農家は被っている状況であります。

市内畜産農家では、毎月平均600頭を超える規模でCSFワクチン接種を行うということであれば、単純計算で約20万円の出費が続いていくことになります。年間に直せば、240万を超える負担がのしかかることになるわけであり、このように大きな負担が続くのであれば、事業継続をやめざるを得ないという事業者が出てくるのも当然かと思えます。

実際に、先ほど申し上げましたように、防護柵設置の段階で廃業を決めた畜産農家が2軒あるということでありましたので、今後の事業継続に向けた畜産農家からの相談、あるいはCSFワクチン接種等の経費負担への行政支援を求める相談が経済部のほうに届いているのかどうか、お伺いしたいと思います。

○議長（池田正文君） 経済部長・額賀君。

○経済部長（額賀 均君） 支援の費用負担や相談体制についてご答弁申し上げます。事業継続に向けた相談及び費用負担の支援を求める相談につきましては、該当する畜産農家から、支払い方法を口座引き落としなど、簡素化を行うことはできないか、また、接種料が毎月高額となることから、補助金等の支援はないのかなど、声が上がっております。

先日、石岡市養豚協会からワクチン接種費用の支援策等の相談を受けてございます。現在、経済部において検討を始めたところでございます。

以上でございます。

○議長（池田正文君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 幾つかの相談が上がっているという答弁を頂きました。その中で、口座の引き落とし、こちらについては、そんな大きなお金がかかるということでもないと思えますので、事務的な手続で可能であれば、なるべく早い段階でそういった取組を行っていただければと思えますので、よろしくお願い致します。

市長のほうにお伺いしたいと思いますのは、市長は所信の中で農産物のブランド化等、6次産業化によるもうかる農業への支援について触れられております。今回のCSF感染拡大防止対策につきましては、事業者にとって死活問題と言える問題であります。石岡市にとっても積極的な対応を進めるべきだと考えております。

他市では、既に事業者への支援を具体化しようとしている市も見受けられるようです。県議時代のパイプをぜひ生かしていただきまして、まず、県におけるさらなる支援、これと併せまして石岡市独自の支援策について、市長にお考えがあれば、見解をお伺いしたいと思います。

○議長（池田正文君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） 支援策についてご答弁いたします。石岡市は養豚が盛んな地域ですので、豚熱感染防止対策は大変重要であると認識してございます。茨城県も養豚の

飼育頭数は全国でも上位でございますので、養豚農家の存続のために現在実施している支援策の拡大などについて県への要請を行うとともに、石岡市独自の新たな支援策についても検討してまいりたいと思っております。

○議長（池田正文君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 茨城県はローズポーク、あるいは石岡市ですと弓豚という既にブランド化されている銘柄もございますので、ぜひ石岡市独自の支援策、できれば広域的に近隣の市と連携を取って、そういった支援策がどんどん拡大していただければありがたいと思っておりますので、県、あるいは近隣の首長さんと連絡を取り合って、早急にこの支援策をまとめていただければと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

次の質問に入ります。フレイル予防対策であります。

今年度から高齢者の健康診査にフレイル状態のチェックが導入されております。フレイルとは *f r a i l t y*（虚弱）の日本語訳であります。健康な状態と要介護状態の間に位置し、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態のことを指しますけれども、適切な治療や予防を行うことで、要介護状態に進まずに済む可能性があります。

フレイルの有症率は年齢とともに増加し、特に後期高齢者では、要介護の要因や健康寿命の延伸の阻害要因となっております。健康寿命の延伸において目標となるのは要介護期間の短縮であります。高齢者の自立支援に向けたフレイル予防について、市はどのような対策、対応をするのかについて、考えをお伺いしてまいりたいと思っております。

こちらにつきましては、午前中に先輩議員が同様の質問されておりますので、その点については除かせていただいて、私のほうでお聞きしますが、私、この質問を出すに当たりまして、フレイル健診そのものは石岡市で既に実行されているものだという思い込みで質問を通告しておりましたら、実際にはまだ始まっていないというようなことで答弁のほうもありましたけれども、そういったところを伺いましたので、フレイル健診は石岡市では未実施であることが答弁されておりましたので、国の方針では、このフレイル健診、いつ頃までに始めなさいと多分出ていると思っております。この点と、市の実施に向けた考え、こちらのほうを確認させていただきたいと思っております。

○議長（池田正文君） 保健福祉部長・金井君。

○保健福祉部長（金井 悟君） お答えいたします。フレイル健診につきまして、国の方針でありますけれども、令和6年度までに全市町村で実施することとしております。

当市としましては、今年度よりモデル事業で実施している自治体を参考にしまして、導入に向けて支援策や体制整備を進めながら、できる事業から取り組み、後期高齢者医療制度の高齢者保険制度と介護予防の一体的な事業として、早期の実施を目指していきたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（池田正文君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 今回、フレイルの対応につきましては、質問票がメタボリックシンドロームを中心とした質問票、一般的な質問票からフレイルを意識した質問票に変わったというところで、制度改正が行われたというような答弁もございました。こちら

につきましては、いつでもできるという言い方もおかしいんですけども、フレイルそのものは待たなして高齢者のほうにはやってくるわけでありますので、なるべく早い時期の実施をお願いしたいと思います。

質問の2つ目のほうに移りたいと思います。フレイル予防対策についてでありますけれども、フレイル予防事業、この事業についてお伺いしたいと思います。

今後、なるべく早い時期の実施を目指したいというような答弁もありましたけれども、この中でフレイル予防事業というのはどういったものを組み込んでいくのかについてお伺いできればと思います。

○議長（池田正文君） 保健福祉部長・金井君。

○保健福祉部長（金井 悟君） お答えいたします。現在実施している介護予防事業でございますけれども、地域包括支援センターにおいて、講演会やまちづくり出前講座等を開催しております。また、介護予防や健康づくりを目的に、市内6か所の在宅介護支援センターや社会福祉協議会へ委託し、身近な場所での介護予防教室を開催しております。さらに、地域における介護予防の取組の機能を強化するため、住民主体の通いの場へリハビリテーション専門職を派遣し、介護予防に関する技術的な助言等を行っております。

今後、フレイル健診を導入した際は、フレイル予防対策事業といたしまして、高齢者のフレイル健診等の結果を基に、一人一人の健康課題に対して管理栄養士や歯科衛生士、保健師が低栄養防止や生活習慣病等の重症化を防止、予防するための個別的な支援、また、高齢者通いの場等での運動、栄養、口腔などに対する健康教育・相談を積極的に実施していく予定でございます。

以上でございます。

○議長（池田正文君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 次に、医療機関との連携についてお伺いをしたいと思います。

こちらにつきましては、今、フレイル予防事業について内容をお答え頂きました。この中で、管理栄養士あるいは歯科衛生士等、医療関係者のほうも協力を頂くというようなことでの答弁があったと思いますので、当然、市内のいろんな医療機関との連携が今後ますます増えていくんだろうと思います。こちらについてのお考えをお伺いしたいと思います。

○議長（池田正文君） 保健福祉部長・金井君。

○保健福祉部長（金井 悟君） お答えいたします。後期高齢者の現状の健康診査、保健事業は、広域連合が主体となり、実施しているところでございます。広域連合の委託で実施されている内容としましては、市町村で行う集団健診、石岡市医師会へ委託して行う個別健康診査、茨城県歯科医師会へ委託して行う歯科健康診査事業が挙げられます。今後につきましても、医療関係団体に技術的援助や協力を頂き、フレイル予防事業を迅速に進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（池田正文君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 3点目の総合的な予防対策への取組についてお伺いをしたいと思います。

今後、市町村では、KDBシステム、これは何かといいますと、国保データベースシステムというのがございまして、国民健康保険を利用されている方々の受診履歴等を国が一括で管理しまして、それを各市町村が利用していこうという考え方があるんですが、このKDBシステムの活用によりまして、高齢者の医療、健診、介護情報などを一括して把握できるようになるわけでありまして。

今回新たに変わりました質問票の情報にこのKDBシステムの医療、健診、介護情報を一体的に組み合わせることで、高齢者一人一人に合わせた健康状態を多面的に捉えることが可能になるものと考えられます。当然、市では、こうした情報を生かしてフレイル予防につなげていくことになるとは思いますけれども、こちらについてはどのような方向性を持っているか、お伺いをしたいと思います。

○議長（池田正文君） 保健福祉部長・金井君。

○保健福祉部長（金井 悟君） お答えいたします。石岡市では、今後、フレイル予防への総合的な予防対策への取組として、国保連合会が運用しておりますKDBシステムを活用し、高齢者一人一人の健康状態の評価を行うとともに、地域の健康課題を分析し、効果的な事業を展開していきたいと考えてございます。その前提としまして、地域包括ケアシステムの構築の一環として、介護予防、疾病予防、健康づくりを一体的に実施するために、庁内を横断した連携により、現在各部局で取り組んでいる事業を見直してまいります。

以上でございます。

○議長（池田正文君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 今回質問させていただきましたフレイルへの取組でありますけれども、これまでの検診事業は、メタボを意識しました40歳から74歳の健診事業、こちらが中心となってきております。こちらにつきましては、保健福祉部の健康増進課が担当してきたものと思います。

今回のフレイルへの対応ということで、これは75歳以上、そして介護からの改善となると、これまでは高齢福祉課が担当してきたのではないかと思います。それに加えて、さらに先ほど申し上げましたKDBシステム、国保のデータベースシステム、こちらは生活環境部の国民健康保険課所管ということで、複数の部、あるいは課にまたがっております。

総合的なフレイル対策事業を行うということで今後進めていくわけでありましてけれども、そうなりますと、複数の部課に現在はまたがっているものを今後どうするのかというところで、新たな課をつくるのか、それともどこかの課に増員、増強といいますか、組織を強化するのか、いろいろな考え方があるとは思いますが、この方針をなるべく早めに決めませんと。

実際にフレイル健診が始まる前に、それが決定されるべきだと私は思います。フレイル健診を先に始まって、組織が分散しているので何とかありませんかという担当所管の職員の声を受けて組織を変えるというようなことがあってはならないと思いますので、



人事につきましては市長の権限でありますので、この組織の強化、市長のお考えがあれば、お伺いしたいと思います。

○議長（池田正文君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） 市民の健康寿命の増進、延伸に向け、櫻井議員ご認識のとおり、フレイル予防は重要なものと認識しております。また、部長から答弁がありましたとおり、フレイル予防の対応も早急に進めていかなければならないと思っております。

今後、フレイル予防事業を迅速に進めていくために、庁内横断的に十分な連携を図れるよう関係部局に指示してまいります。その体制づくりを早急に行ってまいりたいと思っております。

○議長（池田正文君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 市長就任1か月余りでありますけれども、いろいろな課題、あるいは情報がたくさん入ってきて、市長も大変だと思います。

ただ、行政のほうは待ったなしでありますので、各種課題につきましては各部長のほうからの情報をしっかり入れていただきまして、また、先ほど来、答弁もありましたけれども、議会との意見交換を進めていただきまして政策の整理に当たっていただき、今日お願いしましたような政策もぜひ早期に実現していただければと思います。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。